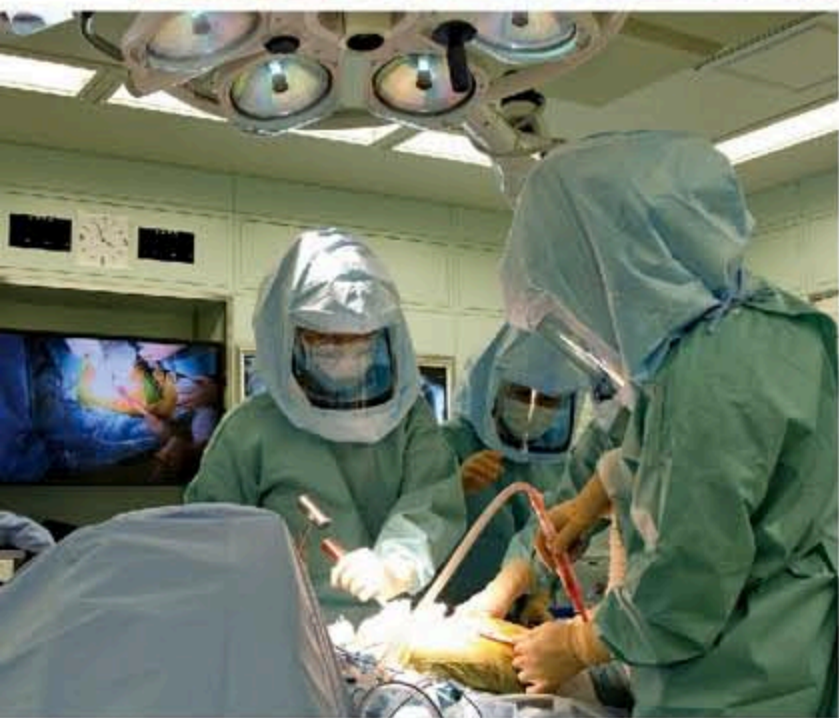




西の京脊椎人工関節センター2階にあるリハビリテーション室。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など40名のスタッフが行う。術後の経過などコミュニケーションを図る植田副院長



人工関節置換術では、筋肉を切らないMISを実現

# 術中モニタリング検査や3D-CTなどの先端機器を導入 トータルケアにより患者のADLと健康寿命の向上を実現する

**神経は再生不能な組織  
異変を感じたらすぐに受診を**

2010年4月に開設された「西の京脊椎人工関節センター」でセンター長を務める植田康夫副院長が強調するのは、脊柱管狭窄症などに代表される脊椎の疾患に関しては、異変を感じたらなるべく早く医師の診察を受けてほしいという点だ。

「神経という組織は、一度損傷したら再生不能な組織です。ですから実際に損傷を起こしてから手術をしても、で

きることは進行を止めることだけ。しびれや痛みを感じる前に、少しでも不具合を感じたら、その時点で一度検査を受けていただきたいと思いますね」

## 術中モニタリング検査や3D-CT導入でリスクを軽減

患者が検査をためらう背景には、やはり脊椎の手術に対する恐怖感がある。そこで同センターでは、術中のリスクを軽減するためにさまざまな取り組みを行っている。術中モニタリング検査もその一つで、術中に脳の運動野に電気刺激を送って筋肉の反応をモニタリングすることでより安心な治療を実現

している。そのほかにもナビゲーションシステムや、全国的にも導入例の少ない術中3D-CT(コンピュータ断層撮影法)システムを導入し、手術により生じるリスクの軽減に努めている。

## 人工関節置換術では10年前よりMISを実施

人工関節置換術においては、10年前よりMIS(最小侵襲手術)に取り組んでいるが、現在は筋肉を切らない手術法を導入しており、93歳で両膝同時置換術を行った例もあるという。



医療法人 康仁会  
**西の京病院**  
西の京脊椎人工関節センター

奈良県奈良市六条町102-1  
TEL.0742-35-1121 FAX.0742-35-1160  
http://www.nishinokyo.or.jp/

診療科目：内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、眼科、麻酔科(院長登志)、リウマチ科、美容外科、血管外科、歯科、救急科  
受付時間：月～土8:30～12:00  
休診日：日・祝



## 植田 康夫 副院長

うえだ やすお  
1984年、奈良県立医科大学卒業。医学博士。県立奈良病院整形外科、松阪中央総合病院整形外科医長、国保連合中央病院整形外科医長を経て、97年に西の京病院整形外科医長。2006年、副院長兼整形外科・リハビリテーション科部長。10年、西の京脊椎人工関節センター長を兼務。日本整形外科学会認定整形外科専門医、日本リウマチ学会認定リウマチ専門医、日本救急医学会認定救急科専門医

「人間の体は運動しています。そこで当センターでは脊椎、人工関節両分野で経験豊富な医師を配置し、トータルなケアを実現させることで、患者のADL(日常生活動作)、さらには健康寿命の向上を今後も目指していきたいと考えています」